

「より良い、自分なりの生き方を見つけていくために」

「一昔前の『正解』はグーグルに転がっているけど、未来の答えは手作りしなくちゃいけない。」（駒崎弘樹氏）

文部科学省の諮問機関である中央教育審議会（中教審）は、昨年暮れに、大学入試改革を主眼とする、高校と大学の接続に関わる内容を文部科学大臣に答申しました。その答申の「はじめに」に、次のような文章があります。

「生産年齢人口の急減、労働生産性の低迷、グローバル化・多極化の荒波に挟まれた厳しい時代を迎えている我が国においても、世の中の流れは大人が予想するよりもはるかに早く、将来は職業の在り方も様変わりしている可能性が高い。」

そして、このことについてニューヨーク市立大学大学院センター教授キャシー・デビッドソン氏の予測を引用しています。それは、「2011年にアメリカの小学校に入学した子供たちの65%は、大学卒業後、今は存在していない職業に就く」というものです。この言葉は、2011年8月に語られたものですが、アメリカに限らず、数年の違いこそあれ、先進諸国に共通した見通しと言えるでしょう。つまり、皆さんが10年後20年後に就いている職業は、今はまだ想像もできないものである可能性が高いということです。

そうした変化の速い中であっては、単に大学に進んで、安定した職に就くということでは、通用しないかも知れません。中教審の答申では、これからの時代を生きていくのに必要な力を、『豊かな人間性』『健康・体力』『確かな学力』を総合した力である『生きる力』にほかならない。」としています。しかし、これでは漠然としていて、よく分かりません。

冒頭の言葉は、一昨年、内閣府の「子ども・子育て会議」委員であった駒崎弘樹氏が、新聞社のインタビューに答えた言葉です。氏は、これからの時代を生きていくのに必要な力を、「学び続ける力」「コラボする力」「問題を見つけて試行錯誤する力」だと言っています。「学び続ける力」とは、世の中の変化に応じて、社会に出てからもさらに学び続ける、1つのスキルが陳腐化しても、次につなげていく力です。「コラボする力」とは、意見や価値観、文化や国籍の違う人たちと、対等に一緒に仕事をして、成果を出していく力です。

「問題を見つけて試行錯誤する力」とは、「これは課題ではないだろうか」と気づき、まだ答えがないものに仮説を立て、やってみて失敗して、また試してみても答えに近づく力です。

そして氏は、この3つの力を支えるのは、何よりも「内発性」と「自己と他人を肯定する力」だと言います。「やらされてやる」ではなく、「やりたいからやる」という、内から湧き出る力。そして「自分には価値がある」と信じることで、失敗を繰り返すことを恐れない、小さな失敗くらいで自分の価値は揺るがないと思える力。そして「目の前の人には可能性がある」という根拠なき他者への信頼。これらによって、学び続け、他者とコラボし、試行錯誤することができて、未知である未来を切り拓いていけると言うのです。

これから具体的な進路選択へ歩を進め、希望の進路を実現して行こうとする皆さん。ここで紹介したことを心の片隅に留め、この「進路の手引き」を十分に参考にして、より良い、自分なりの生き方を見つけてください。

未来の入口に立つ皆さんに、次の言葉をエールとして送ります。

「たったひとりしかない自分を　たった一度しかない一生を　ほんとうに生かさなかつたら　人間　生まれてきたかいがないじゃないか」（山本有三「路傍の石」より）